

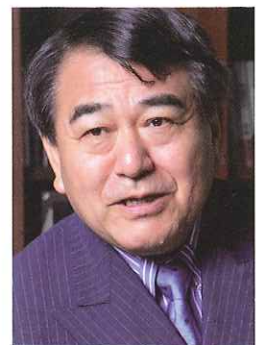
長崎大学リレー講座2011 「東日本大震災後の日本を考える」

第1回

10月28日(金)
18:00~19:30

激動の2011年をどう総括するか

9.11から10年、3.11の衝撃——我々は世界及び日本が大きくパラダイム転換する中で21世紀初頭という時代と並走してきた。東日本大震災の衝撃を受けとめて、いま我々は何をどう考えるべきなのか。日本創生、近代主義者としての覚悟、そして今後のエネルギー構想について語る。



寺島実郎
Terashima Jitsuro

(財)日本総合研究所理事長
多摩大学学長
三井物産戦略研究所会長

1947年北海道生まれ。早稲田大学大学院政治学研究所修士課程修了後、三井物産入社。三井物産常務執行役員、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授等を経て現職。近著は『世界を知る力 日本創生編』(PHP新書)。

+ 長崎大学ホスト役

片峰 茂

Katamine Shigeru
長崎大学長

第2回

11月2日(水)
18:00~19:30

地球的課題への対応を問う

今、我々の住む地球は多くの深刻な問題に覆われている。世界の経済・社会の継続的な発展のためには、地球温暖化への対応や自然災害や紛争による被災者の支援、あるいは人権や腐敗など企業に関わるべき重大な課題がある。社会的な存在として企業は何をなすべきなのか、将来に向けての企業の方向性を考えたい。



有馬利男
Arima Toshio

富士ゼロックス相談役特別顧問
グローバル・コンパクト・ボード・ジャパン議長

鹿児島市出身。1967年ICU卒業、富士ゼロックス(株)入社。2002年~2007年同社代表取締役社長。現在相談役特別顧問。国連グローバル・コンパクト・ボード、ジャパン・プラットフォーム代表理事など。上場企業教社社外取締役。

+ 長崎大学ホスト役

松山章子

Matsuyama Akiko
長崎大学
国際健康開発研究科教授

第3回

11月11日(金)
18:00~19:30

巨大災害と社会基盤：その「進化」と課題

今回の巨大災害を経験し、種々の社会基盤に対する国民の期待も変化し、その計画や運営のためには、地球温暖化への対応や自然災害や紛争による被災者の支援、あるいは人権や腐敗など企業に関わるべき重大な課題がある。社会的な存在として企業は何をなすべきなのか、将来に向けての企業の方向性を考えたい。



家田 仁
Ieda Hitoshi

東京大学大学院
工学系研究科教授

日本国有鉄道勤務をへて東京大学勤務。途中、西ドイツ航空宇宙研究所、フィリピン大学、中国清華大学に客員教授などとして派遣。東日本大震災には土木学会調査団などに参加。国交省の各種審議会委員等を務める。

+ 長崎大学ホスト役

松田 浩

Matsuda Hiroshi
長崎大学・副学長
工学研究科教授

第4回

11月24日(木)
18:00~19:30

社会と科学・技術との新たな関係を問う

近代ヨーロッパに始まる科学は、当初は科学者共同体の内部に自己完結した営みであり、社会とは明確に距離があった。しかし、20世紀中ごろから、産業や国家行政が科学研究のクライアントとなり、大きな成果を上げてきた。そして今、社会が科学・技術にどのようにガバナンスを発揮するのか、それが深刻に問われている。



村上陽一郎
Murakami Yoichiro

東洋英和女学院大学学長

東京大学教養学部教授、同先端科学技術研究センター長、国際基督教大学教授を歴任し、2011年より東洋英和女学院大学学長に就任、現在に至る。著書は『人間にとって科学とは何か』、『あらためて教養とは』ほか多数。

+ 長崎大学ホスト役

葉柳和則

Hayanagi Kazunori
長崎大学
環境科学部教授

第5回

12月2日(金)
18:00~19:30

現場力の発揮と経営トップの在り方

3月11日に発生した東日本大震災は、甚大な被害をもたらしました。本講演では、被災地の過酷な状況の中、損害保険の責務を全うするために現場の社員や代理店が発揮した「現場力」、そして、これを支えるトップの「リーダーシップ」と「マネジメント」について、実例を交え講演します。



鈴木久仁
Suzuki Hisahito

あいおいニッセイ同和損害保険社長
日本損害保険協会前会長

1973年大東京火災海上入社、2度の合併を推進、2010年4月あいおい損保(現あいおいニッセイ同和損保)社長に就任。同年6月日本損害保険協会会長に就任し東日本大震災の対応では、協会長として損害業界の陣頭指揮にあたった。

+ 長崎大学ホスト役

須齋正幸

Susai Masayuki
長崎大学理事・副学長
経済学部教授

第6回

12月8日(木)
18:00~19:30

ポスト3/11の日本再生プログラム

ポスト3・11の日本社会はラディカルな制度の再編を余儀なくされている。日本はこれから「成長なき社会」(レヴィ=ストロースがかつて「冷たい社会」と呼んだもの)にゆっくり向かってゆくことは間違いない。制度疲労する様々な局面のホットイシューを取り上げ、問題を整理したい。



内田 樹
Uchida Tatsuru

凱風館館長
神戸女学院大学名誉教授

2011年、神戸女学院大学文学部教授を退職後、合気道と哲学研究のための学塾凱風館を開設。専門はフランス現代思想、武道論、教育論、映画論など。著書『私家版・ユダヤ文化論』で小林秀雄賞、『日本辺境論』で新書大賞、2011年度伊丹十三賞を受賞。

+ 長崎大学ホスト役

山本太郎

Yamamoto Taro
長崎大学
熱帯医学研究所教授

第7回

12月16日(金)
18:00~20:30

大学が担うべき役割

基調講演

このたびの東日本大震災は、私たち日本人にとって価値観の変換を迫るものであった。これについてある経済学者は「我々日本人には、将来の復活に関して楽観的である義務がある」という。本講演では、「将来に対して楽観的である義務」を果たすために、長崎大学が担うべき役割について考えてみたい。

パネルディスカッション

今回のリレー講座の6回の講演および基調講演をふまえて、研究者や教育者、そして企業や市民、学生が、これからの国づくりに向けて何をすべきか、担うべき役割はどのようなことか等を、パネリストからの提案や問題提起を基に議論、検討し、具体化に向けた糸口を探っていく。

パネリスト



潮谷義子
長崎国際大学学長



宮崎芳之
長崎東高等学校校長
長崎県高等学校長協会会長

金澤一郎

宮内庁長官官房皇室医務主管
国際医療福祉大学大学院長

片峰 茂

長崎大学長

中田英昭

長崎大学水産・環境科学
総合研究科長、教授

モデレーター

須齋正幸

長崎大学理事・副学長
経済学部教授



金澤一郎
Kanazawa Ichiro

宮内庁長官官房皇室医務主管
国際医療福祉大学大学院長

特に遺伝性の神経疾患を専門としている神経内科医。本人の意思とは無関係に、東大教授、東大病院長、日本内科学会理事、さらには日本学術会議会長をも務めてきた。現職の宮内庁皇室医務主管も「想定外」だった。